



近森会グループ

発行 ● 2010年2月25日

びるっぱ

3

Vol.284

www.chikamori.com 〒780-8522 高知市大川筋一丁目1-16 tel.088-822-5231 fax.088-872-3059 発行者●近森正幸/事務局●川添昇

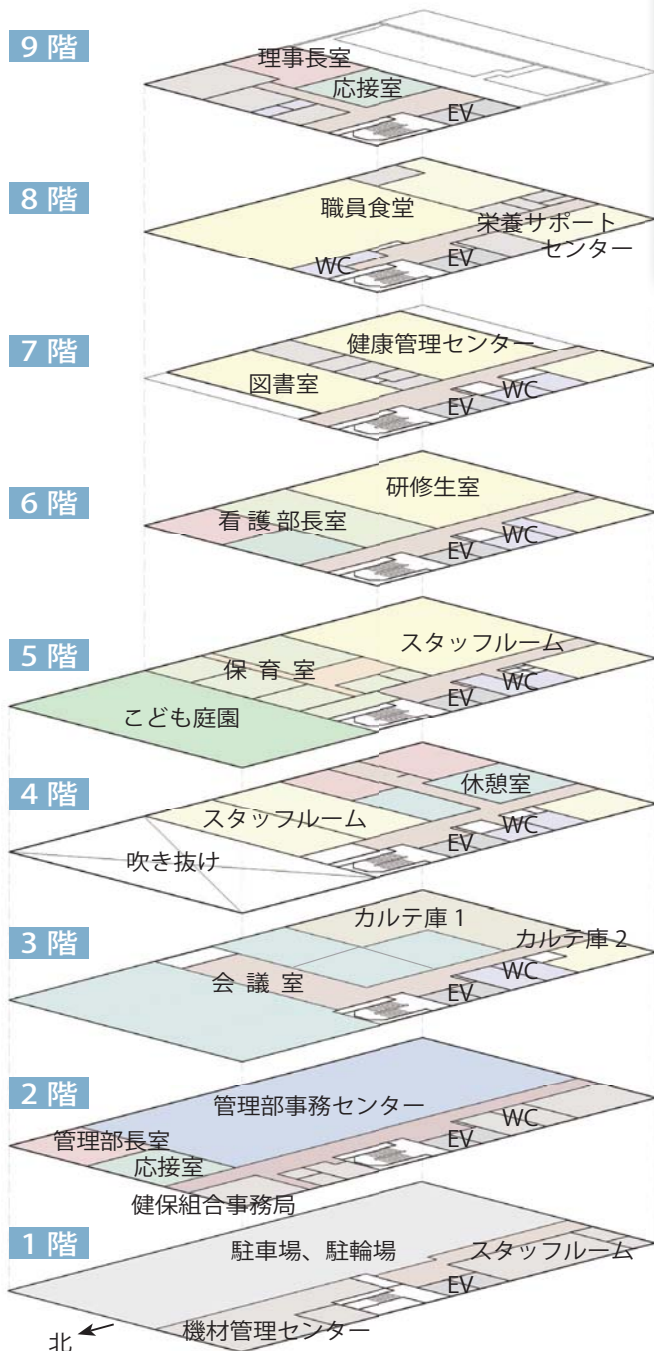
近森病院建設五カ年計画がスタート

管理棟から医療支援センター^(仮称)へ



社会医療法人近森会 管理部長 川添 昇

社会医療法人近森会 医療支援センター完成間取り



社会医療法人近森会の理念

1. 近森会は、患者さんが尊厳ある人生をおくることができるように、適切な医療サービスを提供する使命があると考えています。
2. 近森会は、患者さん中心の医療を、快適に受けられる場所でなければならないと考えています。
3. 近森会は、たえず医療水準の向上に努め、スタッフが誇りと責任をもって働ける職場でなければならないと考えています。

職場づくりのお手伝いをするのがこの医療支援センター（仮称）の大きな役割といえる。別のいい方をすれば、この病院で医療を受けて良かったと患者さん

2月25日、旧ホテルサンルートの解体工事が始まった。続けて北館病棟、外来センター棟の建設、新館の改修、本館の改築など、今後5年間にわたって進められる建設工事がいよいよスタートすることになった。気の引締まる思いである。

このほど建設されるのは、社会医療法人近森会の管理部門のみならず看護部の本部機能、各種会議室（200名収容の大ホールもある）、スタッフルーム、休憩スペース、その他、保育所や職員食堂などの福利厚生施設が整備される予定である。（左図参照）

当たり前だが、病院の使命は患者さんに早く良くなってもらうこと。具体的にいえば近森会の理念を全うすることである。医療現場のスタッフが誇りと責任をもって働ける

に思っただき、多くのスタッフが、この病院で働いていることに喜びを見出すことができる、そんな医療を提供できる病院であるよう、絶え間ぬ支援をするのがセンターの役割だと思う。

30数年前、私が就職した近森病院の事務室は現在の本館の地下にあった。何と劣悪な職場環境であることか、とがっかりしたことを思い出す。それから古い木造の病棟や旅館であった建物を事務所仕立て直したり。当時はデパートの「売場優先主義」と同じ考え方だったのではないと思う。中古のコンクリート造りの現在の管理棟に移ることができたのは現理事長が就任された直後のことであった。管理部一同雨漏りの心配のない建物に大喜びしたことを今でも憶えている。もっともそんな仲間はもう数名となってしまった。

そのような歴史を経てこのたび全く新しい期待の建物が建設されようとしている。戦争にたとえて恐縮だが、勝敗の帰趨は兵站（ロジスティクス）にあるといわれている。この建物が医療現場に対してすぐれたロジスティクス機能を発揮できるセンターになることを願ってやまない。

リスク分析から見た転倒予防

近森オルソリハビリテーション病院
院長 鄭 明守



1月23日高新文化ホールにて「転倒を防ぐ～リスク要因からみた転倒対策～」というタイトルで講演を行いました。2007年に開院した当院にとっては初めての取り組みであり、テーマ選定、日時、場所、運営等すべて手探り状態のなかでの開催となりました。

当初は100人程度の参加人数を想定していましたが、蓋を開ければ237人と多くの方の参加を得ることができ、病院、診療所、各種施設を問わず、ご高齢の患者さんを扱うものにとって転倒対策は常に必要にせまられたテーマであったと改めて実感しました。

講演に関しては、2時間で7演題とちょっと欲張りすぎたように思いましたが（講演後のアンケートでご批判も

ちらほらありました）、夜間頻尿や睡眠障害と転倒の関係や、眠気覚ましの体操を兼ねたりハビリ部の実演、また住宅改修の実演など、他の転倒予防の講演ではみないようなテーマを設定し、すぐ使える知識も豊富に含まれていたのではないかと自負しています。運営においては数えきれないミスや不手際があり、ご来場いただいた方にはご迷惑をおかけしましたが、自分たちの知識の整理、確認にも非常に役立ち、次の機会にはさらに充実した内容になるように今回の経験をいかしていきたいと思えます。



3月の歳時記

スマレ(堇)



医事課 中村麻美
春に深い紫色の花を咲かせるスマレ。日本では野の草の代表のように見られ、古くから親しまれてきました。

花の形が大工道具の墨入れに似ていることから、「すみれ」の呼びがしだいに「すみれ」になったとされています。



画・総務課(広報担当) 公文幸子

世界の温帯地域を中心に、およそ450種が確認されていますが、日本は自生種が60種とも100種以上とも言われる「スマレ大国」です。

私の生まれた3月から咲き始めますので、ぜひスマレの季節を楽しんで下さい。

JPTEC

日本救急医学会公認・病院前外傷教育プログラム



病院前外傷の救護処置研修 (JPTEC) が1月16日(13:00～17:00)、17日(9:00～16:00)の2日間にわたって近森病院で開催されました。



エマルゴ・トレーニング・システムを用いた災害時多数傷病者救護訓練

2月7日9:00～17:00に、高知医療センターで消防関係者も参加してエマルゴ・トレーニングが行われました。



日本看護管理学会例会 in 高知合宿

一満月はいかにして創られるかー 「システム思考で看護管理を創造する」

2010年1月30日土曜日、日本看護管理学会例会 in 高知合宿が「月の名所」桂浜にある「国民宿舎桂浜荘」で開催されました。

社会医療法人近森会 統括看護部長
梶原 和歌

この例会は、各地域の看護管理学の教育・研究者と現場の看護管理者が、地域の看護管理上の課題を共有し学術的な交流を深め、研究等で協働を探ることを目的に日本の4カ所で毎年開催されているものです。この例会運営を学術活動推進委員会の井部俊子委員長より依頼を受け近森会の梶原が担当しました。

日頃の悩ましい問題をシステムティックに解決することを目的にまず、高知女子大学の山田覚教授による『満月はいかにして創られるかーシステム思考で看護管理を創造するー』の講義から始まりました。

NEW ハートラム電車

社会医療法人記念号が2月1日から運行を開始しています。



その後

- ①救急を止めない
- ②超勤を減らす
- ③退院調整
- ④CNS（専門看護師）・CN（認定看護師）を活かす看護管理
- ⑤多職種で円滑にチーム医療を行う指標とは
- ⑥在宅緩和ケア・訪問看護

の6グループに分かれ、グループ討議を行いました。

101名の参加だったため、ひとつのグループの人数が多く話題提供者、ファシリテーター・メンバーも苦慮しましたが、最初の講演と関連させて課題を満月に近づける試みが

山田覚教授による講義



- ▲会が終わった後、夜の更けるまで「おきやく」で出席者の交流が行われました
- ◀向かって左の統括看護部長梶原と講師他
- ▼グループ討議



展開されました。その後この学会では定番だったディベートを復活させ、「経営と管理のジレンマ」で白熱の議論を戦わせました。

本来の例会はこれで終了するところですが、そこは土佐の高知で、これからが本番と夜の更けるまでおきやく（宴会）の交流が繰り広げられました。近森会からは多くの看護師が参加し、裏方も務め、異なる施設や大学人と出会い、楽しい学びの機会となりました。

聴診器と私 手で触れ、感じる事が

近森リハビリテーション病院3階東病棟 看護師長 南 和芳

聴診器といえば看護師さんの象徴で学生のときは、憧れ物品の一つでした。初めて自分の聴診器を購入した時は、嬉しくて首にかけてみたり、聴診するふりをして鏡の前に立ったものです。しかし、数年もたつと仕事道具の一つでしかなくなり、今となっては子どものおもちゃ箱のなかにあります。しかも、子どもですら出してきて遊ぶこともなくなりまし

た。だからといって仕事をさぼっているわけではないですよ（笑）。

師長になってから、直接患者さんの聴診をすることは減ってきましたが、もちろん、聴診器（病棟用）を使うこともあります。それ以外にも患者さんとのコミュニケーションを通して変化や普段との違いを気づけるように心がけています。

今では、学生のころとは違って、



器具や機械を使用して観察することだけが看護ではなく、自分の目で見て観察し、そして実際に手で触れ、感じる事が看護師には大変重要なことだと感じるようになりました。

専門的知識、技術、態度を 備えたリーダーとして

近森リハビリテーション病院 4階病棟
シニア看護師長 岡部 美枝

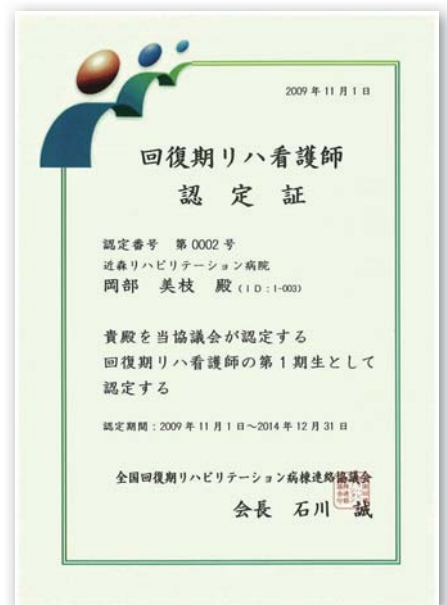


近森リハビリテーション病院が開設されて20年、回復期リハビリテーション病棟が制度化されて10年が経過しました。20年の歴史のなかで、諸先輩方から現在に至るまで、リハビリテーション看護とは、とチームにおける看護の役割を考えてきた歴史があります。

数年前からは、日本看護協会で「リハビリテーション看護師」の認定が検討されてきました。そのなかで、全国回復期リハビリテーション病棟連絡協

議会では、回復期リハビリテーション病棟において

- ①回復期リハビリテーションサービスの対象者及びその家族に対する質の高い看護の提供
 - ②回復期リハビリテーション病棟における個人、集団、組織に対するリスクマネジメント
 - ③回復期リハビリテーションサービスにおける他職種との協働とチームアプローチ
- の実践ができる看護師を育成するこ



とを目的に、平成19年(2007)9月より「回復期リハビリテーション看護認定コース」が開始されました。18日間の研修(1期生は2年課程、2期生より1年課程)終了後に、活動実践レポートを提出の上で『回復期リハビリテーション看護師』として認定されるコースです。

全国より回復期リハビリテーション病棟で活躍する看護師が

- ①脳機能の障害の評価と能力の評価ができ、専門的な知識によるリハ看護の実践ができる
 - ②回復期リハ病棟の機能を理解し、他職種からなるチームにおいてリーダーシップが発揮できる
- ことを目標として受講しました。

当院では、私と寺山みのり看護部長が昨年11月に、今年1月には小松祥子師長が「回復期リハビリテーション看護師」としての認定を受けることができ、全国では1期生113名、2期生92名が認定を受けました。

まだまだ回復期リハビリテーション看護師としての活動が十分にできている状況とはいえませんが、回復期リハビリテーション病棟に成果主義が導入され、多職種によるチームアプローチがますます重要となるなか、専門的知識、技術、態度を備えたリーダーとなる「回復期リハビリテーション看護師」の活躍は重要です。

結果の向上だけではなく、回復期リハビリテーション病棟におけるケアとはなにかをスタッフとともに考え、医療の質を向上できるような役割を担えるよう、頑張っていきたいと思っています。

リレーエッセイ

多忙な中にも充実感が

高知市障害者相談支援センターちかもり

ソーシャルワーカー 大西 清美

熱しやすく冷めやすい私はとりあえず興味のあることにチャレンジしています。その中で残っている編み物やスポーツは好きなことの様です。

最近ではギターに挑戦中です。友達から「もういらないからあげる」と譲り受け、暇を見つけて練習しています。ギターは以前から、弾ける友達を見て、「できたらカッコいいな。ちょっとやってみたいな」とは思っていたのですが、自分でギターを買ってまでやろうという決意はなかったので、友達からもらえて頑張って練習しています。最初は指が届かないし、痛くなるし、全然弾けなかったのですが、今は「F」の



壁を乗り越え、少しずつ楽しくなってきました。

私は何かと物に恵まれているようで、自転車が盗難にあった時に、「どうせなら、バイクが欲しいな」と思っていたら、先輩が使わなくなったバイクを譲ってくれたり、食べたい物があつたら、友達を買って来てくれたりします。有難いです。ちなみに、その盗難に遭った自転車が先日、2年ぶりに無傷で出てきました。空気が抜けていたくらいで、今では普通に乗っています。今は、ミシンが欲しいと願っています。家で眠っているいらなくなったミシンがあれば、お声をかけてください。

乞！ 熱烈応援

高齢者の排尿管理

泌尿器科 部長

片岡 真一（高知県出身）

昨年12月に泌尿器科部長職を拝命しました。2004年7月からの当院勤務となりますので、足かけ6年お世話になっています。

超高齢化社会を迎え、高齢者の排尿管理は、介護の面からも重要な課題です。日々の診療で忙しくしておりますが、外部の講演などの機会を通じ、最近では泌尿器科医としての重責を強く感じています。

これまでも私なりに地域医療に貢献して参りました。今後も名ばかりの部長と云われぬように、スタッフの皆さんとコミュニケーションを取り（実はコミュニケーション委員長です）頑張っていきたいと思っております。今後ともよろしくお願いいたします。



泌尿器科 科長

おしっこ

濱口 卓也（和歌山県出身）

先日、においでがん患者を当てる犬をテレビ番組で観た。がん患者の息をかぐと「ワン！」とほえるらしい。実は泌尿器科でも同様の研究がなされている。膀胱がん患者の尿のにおいをかぐと、これまた、「ワン」とほえるらしい。犬がえらいのか、犬の嗅覚に着目した人間がえらいのかはわからないが、嗅覚というものは人間の五感の一つでもあり、大事なものだ。

尿というものも興味深い。尿臭だけでなく、色調、混濁度、尿検査などなどから体の様々な情報をもたらしてくれる。ものの本には「検尿は針のいらぬ生検である」と書かれている。

尿を扱う泌尿器科、まだまだ私自身半分もわかっていない気がするが、今後も泌尿器科道に精進し、「おしっこ」の理解を深めていこう！

新シリーズ

よき友くすし

1



ご存知ですか？ 病院薬剤師の仕事

近森病院薬剤部 主任

嶋崎 ユリカ



病気の治療や予防に欠かすことのできない薬。患者さんにとって安全で有効な薬物療法

を支えるのが、私たち病院薬剤師の仕事です。新シリーズ『よき友くすし(薬師)』、第一回はそんな私たちの仕事をご紹介します。

薬剤部では、薬剤の調剤や供給管理・品質管理といった伝統的な薬剤師の仕事のほか、患者さん一人一人の問題点を把握し、処方^{せう}の提案や情報提供を行う病棟業務に取り組んでいます。

◆
■調剤：最も代表的な業務です。薬の重複、相互作用などのチェックも行います。

■服薬指導：患者さんが薬を正しく使えるように薬の効果、使い方、注意点などをお伝えし、副作用などのチェックも行います。

■注射薬調剤：投与量、投与方法、配合変化などのチェックを行った後、個人毎にセットします。

■高カロリー輸液、抗がん剤のミキシング：クリーンベンチ、安全キャビネット^{ネット}で無菌的に混注を行います。

■D.I.業務：医薬品に関する情報を収集・整理し、機関紙や院内情報システムを利用して情報発信しています。

■カンファレンスへの参加：各種カンファレンスに参加し、薬剤師の視点から提案や情報提供を行っています。

■TDM(薬物血中濃度モニタリング)：薬剤の血中濃度をもとに、最適な投与計画を医師に提案しています。

◆
そのほかにも、様々な業務に取り組



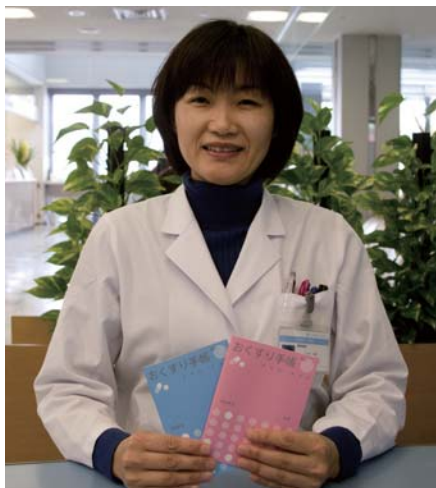
んでいます。

徒然草の中で「よき友」の一つに「くすし」とありますように、患者さんから、薬についてなんでも相談していただけるような存在になれるよう努めていきます。

このコーナーでは、身近なお薬立ち情報をお届けしていきたいと思っています。よろしくお願いいたします。

医療安全の取り組み

“持参薬”という言葉をご存知ですか？



服薬中のお薬のことが書かれた「おくすり手帳」を両手に

持参薬とは入院時に病院に持ってきていただく、患者さんが入院するまでに自宅などで服用していたお薬のことです。近森病院では持参薬を一旦お預かりして、薬剤師が内容を確認し、使用や管理に注意が必要な薬剤、必ず服

近森病院薬剤部 部長
筒井 由佳

用しなければいけない薬剤、逆に手術などのため中止する必要がある薬剤などの情報を、医師や看護師に伝えています。

持参薬と入院後に処方される薬剤の重複投与を避けることもできます。持参薬の内容を正しく把握することは入院後の治療を行う上でとても大切なことなのです。お薬の説明書、お薬手帳は大切な情報源となりますので、持参薬と一緒にお願いします。

また、自宅でのお薬の服用方法や保管方法について、病棟で担当の薬剤師が質問にお答えしています。入院中はもちろん、自宅でも正しくお薬が服用できるよう薬剤師がお手伝いさせていただきます。

私の趣味「マイブーム キング！」

訪問看護ステーションちかもり
所長 山本 百合



マイブームと言えば、もちろん「キング」！ 我が家の6歳になる三男？です。キングが来てからダルメシアンを見かけるとうれしくなり、



カバン、傘などのダルメシアン・グッズを見つけるとついつい買ってしまいます。

「キング」の写真や動画を撮っては、スタッフや利用者さんに自慢しています。たまに昼間に帰ると2階でひなたぼっこしながらグーグー寝ていたりして……（番犬になっていない）。

尻尾を振って嬉しそうに走ってくる姿をみると、なんだか怒れなくなってしまう顔を見ているだけで、癒される♥本当に甘えん坊でかわいい我が子です。

「キング」も自分を犬と思わず人間と思っているようで、犬が苦手な犬同士で遊ぶより子どもたちとサッカーや相撲などをして遊ぶのが大好きです。また、みかん、スイカ、ぼろしパンも大好き。ご飯になると食卓の自分の椅子に座り、「まだ？」と言わんばかりにぶつぶつ文句も言います。本当に名前の通り王様（キング）のようです。

去年は、骨折で2カ月入院しました。その間、家族みんな「キング」の心配ばかりしていて、帰ってきたときは「やっと家族がそろった」と子どもたちも大喜びでした。これからは私のキングブームは続きます。

Chikamori ★ Kitchen 2 第3回のメニューより

サラダ寿司

臨床栄養部管理栄養士
主任 内山 里美



▲左手前がサラダ寿司。それにカラフル切干し五色煮、即席味噌汁、わらびもち

◆材料（1人分）

・ご飯	100g
・かにかまぼこ	25g
・キュウリ	1/2 本
・錦糸卵	少々
・刻みのり	適宜
・すしのこ	適宜
・鮭フレーク	80g
・オクラ	4 本
・レタス	2 枚
・いくら	小さじ 1
・紅生姜	適量

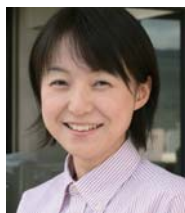
◆作り方

- ①ご飯を炊き、すしのこを合わせて寿司飯を作る。
- ②オクラはゆで、小口切りにしておく。
- ③キュウリは輪切りにし、レタスは手でちぎり水にさらしておく。
- ④寿司飯と鮭フレーク、かにかまぼこ、オクラ、キュウリ、レタスを混ぜ合わせる。
- ⑤器に④を盛り、錦糸卵、刻みのり、いくら、紅生姜を彩りよく飾る。

今月は第3回のメニューから、サラダ寿司をご紹介します。ごはんの量が少なくても、野菜を中心とした具がたっぷり入っているので、ボリュームは満点。ワンプレートで野菜もしっかり摂れる、優秀メニューです。市販の寿司飯の素で作るので、調理も簡単ですよ。ぜひお試しあれ。

ホッとさせる小さな花

近森リハビリテーション病院 看護部長 寺山みのり



最近では、小学校にある和式トイレの使い方がわからず、便秘になる子どもが多いと聞かすが、当院にも和式トイレの小部屋がある。トイレの近くの医局には私の机があり、私はカチンコチンの頭で考えごとをしながらそこを利用することも多い。そんなトイレのなかにも、「キラリと光る看護」がある。

手洗いをしようとして気づくのが、トイレのなかの小さな洗面台にやっと乗るくらいの小さな花の存在である。片隅にありながら確実に目に留まるその場所に、花を置く人の「気遣いのあるケア」を感じずにはいられない。小

さな花から伝わる心が、私のカチンコチンを一瞬に溶かし、「大丈夫だ」という気持ちにさせてくれる。

この花は、当院の看護部のあるスタッフが、自宅の近くや日曜市で安価なものを探してきては、トイレや階段の踊り場に飾っている。彼女は、誰から言われたわけでも、役割を与えられたわけでもなく、「少しでも癒しになれば」と、季節感あふれる工夫を凝らし、院内のここぞという場所に花を飾る。患者さんがセラピストと一緒に階段の昇り降りをする時、ご家族が面会を終えて病棟の外へ一歩出た時、この

花をみて何を感じ、考えるのだろうかと思像してしまう。

回復期リハ病棟では、MAX 9 単位の訓練と、食事、排泄などのADL向上に向けて患者さんもスタッフも頑張る。けれども、人間、食べたいものを食べ、不安な胸の内を誰かに話し、湯船で体を温めてホッとしながら思いに更ける、そんなひと時があるからこそ、また何かを目指して頑張れるものだ。

そんな自分にとって当たり前であることを、ケアとして当たり前に行うことがなかなか難しい。だからこそ、この花は「当院の看護は大丈夫」と私をホッとさせる。

海外職員旅行

●今回はパラオ、フィンランド、カンボジアの紹介です。



パラオのミルクキーウェイで、天然の泥パック。角質も取れ、お肌もツルツル!?

全身スーツで寒さもへっちゃら



砕氷船 SAMPO 号での寒中遊泳 (フィンランド)



アンコールワットの前で



交友録エッセイ

リハ病院事務長から5年

福島県立会津総合病院主幹兼経営企画室長
安藤 保寛



1961年福島県生まれ。(医) 慈繁会土屋病院医事課勤務(郡山市)の後(医) 和光会木俣病院事務長(四万十市)。近森リハビリテーション病院事務長を経て現在、福島県病院局採用、福島県立会津総合病院勤務(会津若松市) E-mail andou_yasuhiro_02@pref.fukushima.jp

よく聞かれたのが、何故福島から高知に来たの? それは郡山市の病院勤務時代に、外科医木俣先生(旧中村市出身)と知り合ったのが縁で一度目の転機……、気づいたら四万十川のほとりに18年、幡多で在宅医療等に携わりながら目標に近森病院がありました。

当時の高知県病院・診療所事務長会の会長川添管理部長(失礼ですが兄貴的存在)にそろそろ田舎に帰る話をしたことから、福島へ帰る前に近森に来ないか、との話を戴き、それが2度目の転機となり、憧れの近森会にお世話になりました。短い間でしたが在職中は、当時の栗原院長始め、各スタッフの皆さま方には大変お世話になりました。この場をお借りして心よりお礼申し上げます。

とにかく近森理事長はじめスタッフのフットワークの良さ、そして患者さんを思いやる気持ちに感服でし

た。また、全国から注目される病院はとにかく忙しく、楽しく勉強になる充実した日々で沢山の良いスタッフに恵まれました。

スタッフが生き活きと、良いものを取り入れる柔軟な姿勢、近森理事長の理念が浸透している組織だと、今は近森の名を見れば我が病院のように自慢しています。

現在、私は福島県立病院の意識改革、政策医療、医療の特化、存在意義等で悩みながら、県立病院を統合し、新病院を福島医科大学附属病院化へと歩んでいます。

全国自治体病院に述べたい、病院は誰のためにあるのか? 今こそ「選択と集中」もう一度、原点に戻るべきだと思います。

高知が第二の故郷、いつも近森会に元気、勇気、やる気を戴いている変な地方職員共済組合員です。

(あんどう やすひろ)

お知らせ

●第64回地域医療講演会

「精神保健医療福祉の

更なる改革に向けて」

平成22年3月20日(土) 15:00～

会場：近森病院管理棟5階会議室

講師：厚生労働省 社会・援護局

障害保健福祉部精神・障害保健課

野崎 伸一課長補佐

●第65回地域医療講演会

「生活習慣病としての

非アルコール性

脂肪性肝炎 (NASH)」

平成22年4月16日(金) 18:30～

会場：ホテル日航高知旭ロイヤルホテル

講師 高知大学医学部

消化器内科学教授

西原 利治先生



ミーハー魂全開

高知ハビリテーリングセンター 中山 るみ



ビートルズファンにはお馴染みのアビィロードでのひとコマです。ジャケット写真のメンバーと同じポーズで撮るつもりが思いつきカメラ目線で映っています。

実はこの通り結構な交通量で、実際の撮影は警察が通行止めにして行ったのですが、私達は強引に車を止めてクラクションの嵐を浴びながら撮影しました。

ビートルズファンやミーハー人間が連日訪れる聖地なので、あの場所なら



ではの光景でしょうか。自他共に認めるミーハーな私のお気に入りの1枚。

図書室便り (2010年1月受入分)

- ・ガイドライン外来診療 2009 今日の診療のために／泉孝英 (編集主幹)
- ・モデル・コアカリキュラムに沿ったわかりやすい病院実務実習テキスト／病院・薬局実務実習東海地区調整機構 (監修)
- ・系統別看護師国家試験問題 解答と解説 2010年版／「系統看護学講座」編集室 (編集)
- ・看護師国家試験のための看護学コア・ノート改訂版／河野保子 (総監修)
- ・第40回日本看護学会論文集 看護総合／日本看護協会看護教育研究センター (編集)
- ・診断書を作成される医師のための障害年金と診断書 障害基礎年金・障害厚生年金 平成17年4月版／社会保険研究所 (企画・制作)
- ・介護経営白書 2009年度版大変革時代到来介護業界大再編を生き抜く事業戦略と七つの方策／ヘルスケア総合政策研究所 (企画・制作)
- 《寄贈本》
- ・黒酵母培養液 ソフィーβ-グルカンの力 ～生理活性・免疫機能・食効を高める多糖類～／藤井昇 (他著)
- ・患者思いの病院が、なぜつぶれるのか？／渡辺さちこ
- 《別冊・増刊号》
- ・別冊医学のあゆみ 最新・疲労の科学 - 日本発：抗疲労・抗過労への提言／渡辺恭良 (編集)
- ・腎と透析 Vol.67 増刊号 2009 CKDのすべて／『腎と透析』編集委員会 (編集)
- ・EMERGENCYCARE DMAT 完全マニュアル 防ぎ得た死を減らす災害派遣医療チーム入門&実践／大友康裕 (編集)
- 《DVD・ビデオ》
- ・Audio-Visual Journal of JUA Vol.16 No.1 / 日本泌尿器科学会 (監修)
- ・地域連携 network2 巻7号付属 CD-R 社会資源・連携情報活用ガイド 2009 社会資源リスト／日総研出版 (監修)
- ・地域連携 network2 巻7号付属 CD-R 地域連携フォーラム集／日総研出版 (監修)

編集室通信

その一瞬のためにたゆまぬ努力を続けてきたバンクーバーオリンピックに出場した選手たちの姿に、感動と勇気をもらいました。常に変わり続けていく近森会にいと、向上し続けるスタッフのパワーを感じます。

『ひろっば』を通して、これからみなさんのパワーをどんどん発信していきたいと思っています。(光)

2010年1月の診療数

近森会グループ

外来患者数	16,543人
新入院患者数	753人
退院患者数	710人

近森病院

平均在院日数	16.42日
地域医療支援病院紹介率	83.47%
救急車搬入件数	388件
うち入院件数	197件
手術件数	421件
うち手術室実施	290件
→うち全身麻酔件数	152件

企画情報室